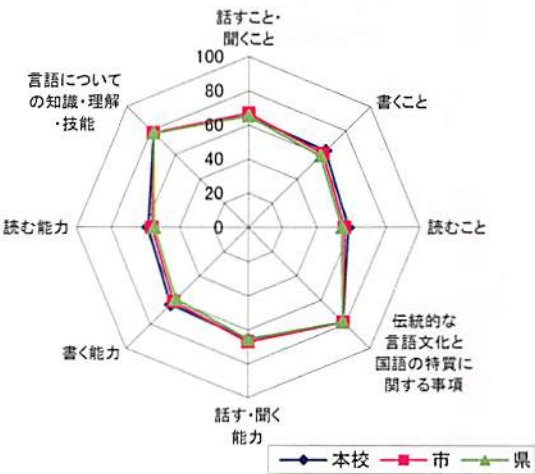


宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	65.4	67.0	65.3
	書くこと	63.5	61.1	59.2
	読むこと	58.2	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.1	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	65.4	67.0	65.3
	書く能力	63.5	61.1	59.2
	読む能力	58.2	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	78.1	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

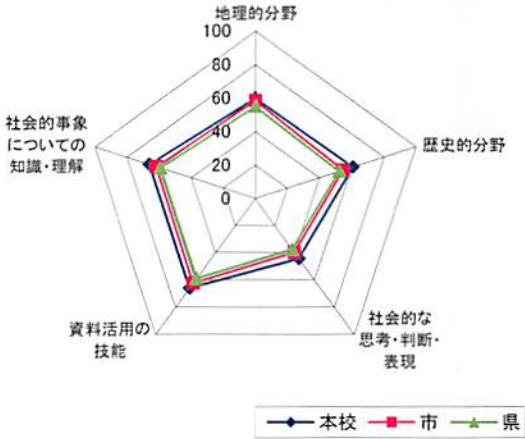
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は65.4%で県の平均を上回った。は司会者として話し合いの進め方を工夫する問題の正答率が90.1%と高く、県、市の正答率をやや上回った。 ●市の平均正答率と比べると1.6%下回った。自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く問題の正答率は36%であり、市や県の正答率を下回った。	・話を聞いて、話の要点をまとめ、自分の考えをまとめていく力を伸ばしていくが必要になってくる。授業の中でそのような場面をつくり生徒に考えさせたい。
書くこと	○平均正答率は63.5%であり、市や県の平均を上回っている。目的に応じて推敲する問題の正答率が県や市の平均を大きく上回っていた。 ●文章の書き方について工夫する問題の正答率は県の平均は上回っていたが、市の平均よりは下であった。	・今後も授業の中で書く力を伸ばしていきたい。さらなる向上のために、普段から文章を書くこと慣れさせていきたい。また、文学作品を多く読むことで優れた文体を覚えさせたい。
読むこと	○平均正答率は58.2%であり、市や県の平均を上回った。文章の展開に即して内容を把握する問題や登場人物の人物像を把握する問題の正答率は、市や県の正答率を大きく上回っている。 ●文学作品の表現の特徴を捉える問題の正答率は、県や市の平均より下であった。	・記述式の問題正答率を高めていくために、授業で、物語作品においては、人物の心情把握や、説明文では、表現の特徴を理解させ、自分の考えをまとめられるようにしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は78.1%であり、県の平均をやや上回った。漢字の読み問題や、歴史的仮名遣いの問題では県や市の平均を大きく上回っている。 ●市の平均をやや下回った。文節の分け方や比喻を問う問題の正答率が県や市の平均より大きく下回った。	・漢字の読み書きについては授業の他に家庭での漢字の練習をおこなうことでさらに力をつけさせたい。文法の授業では、豆テストを繰り返し行うことで文法の力を定着させたい。表現技法については授業の中で具体的な例を挙げることでしっかりと指導したい。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	59.9	58.4	55.0
	歴史的分野	60.8	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	44.3	39.8	37.5
	資料活用 の技能	65.8	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	66.0	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

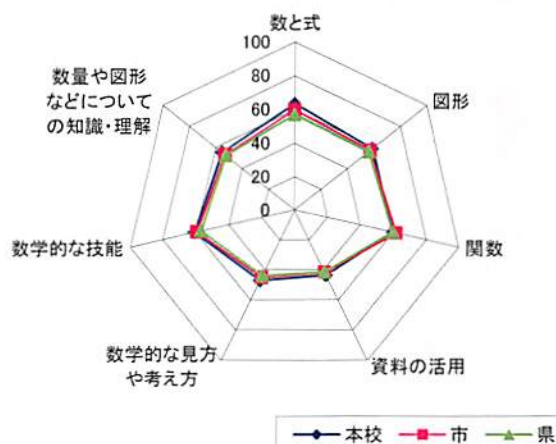
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○選択式・短答式・記述式のすべての項目で栃木県、宇都宮市の平均点を超えることができた。記述式以外の観点において、5ポイント以上県平均を上回った。 ●単元別に見ると、北アメリカ州が宇都宮市の平均点を超えることができなかった。 ●選択式、短答式に比べると記述式の正答率が低いので、今後も思考・判断・表現の力をつける必要がある。	・より知識、理解の能力を高めることで、資料活用の問題や思考判断表現の問題に対しても積極的に取り組むことができるように考える力を身に付けさせたい。
歴史的分野	○思考判断表現、資料活用 の技能、知識・理解のすべての項目で、県平均を10ポイント以上上回った。 ○特に鎌倉時代～室町時代の分野の正答率が高く、県も市も10ポイント以上上回った。 ●資料活用 の問題が思考判断表現、知識理解に比べると達成率が低いので、改善が必要である。	・地理分野に比べ、歴史の方が資料活用 の問題に対する能力を身に付けさせる必要がある。授業の中で資料活用 に対応できるようにさせたい。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.4	59.8	57.0
	図形	58.8	57.1	56.1
	関数	59.9	61.8	59.8
	資料の活用	43.4	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	47.0	44.9	43.9
	数学的な技能	60.7	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	55.2	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

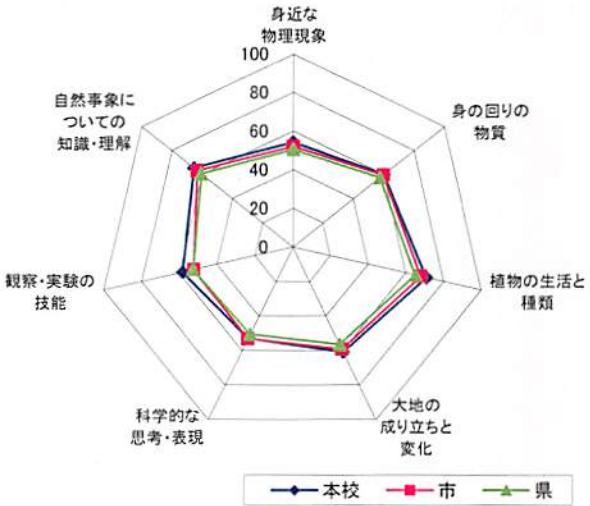
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○四則の混じった計算、文字が同じ部分の項をまとめることについては県平均を10ポイント以上上回った。 ○方程式、比例式の値を求める計算は、市・県平均を上回った。 ●問題場面から方程式を作ること(割合に関する問題)に課題が見られた。	・基礎的、基本的な力の向上のため、授業始めや終わりに反復学習を継続して行う。 ・身近な話題を取り上げ、数学をより身の回りにある現象であると捉えさせるようにする。
図形	○直方体における辺と平行な面を選ぶ問題は市・県平均とも10ポイント以上上回った。 ○与えられた図を見てどのように三角形が移動したか正しい言葉で説明する問題は、市・県平均を上回った。 ●身の回りの課題を作図を利用して解決する問題は定着度に二極化の傾向が見られた。	・立体模型を利用したり、正確な図をかくことで視覚的な理解を促す。合同条件や証明の学習では実際にかくこと、色でなぞるなどの作業を通して、図形に対する認識を深めさせる。 また数学用語に関しては丁寧に指導し、記号の読み取りができるようにさせる。
関数	○反比例の性質について正しく理解ができていた。 ○グラフの傾きから歩く速度の違いを判断し、言葉で説明する問題は、市・県平均を上回った。またグラフから問題にあう条件を読み取る問題は市・県平均を上回った。 ●比例の関係を表す式を求めたり、比例のグラフをかく問題に課題が見られた。	・表をつくること、式をつくること、グラフをかくことを丁寧に指導し、身近な話題を通してそれらが関連づけて考えられるようにする。 ・ICTを活用し、グラフの特徴を視覚的に捉えられるようにする。 ・携帯電話の料金や普通電車と特急電車の速さなど身近な話題を取り上げることで、グラフのよさを実感させたい。
資料の活用	○度数分布表にあてはまる度数を求めること、相対度数階級値を求めることは、市・県平均を上回った。 ●ヒストグラムから最頻値を含む階級の階級値を求めることに課題が見られた。	・資料を読み取り、自分の言葉で考えることに苦手意識が見られる。授業の様々な場面において、グループ活動を利用し、自分の考えをかき、伝えることで、資料を読み取ること、思考の発展を促したい。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	54.3	52.1	50.5
	身の回りの物質	60.1	59.6	57.4
	植物の生活と種類	70.8	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	60.8	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	53.0	53.1	50.6
	観察・実験の技能	58.3	52.4	52.7
	自然現象についての知識・理解	65.3	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

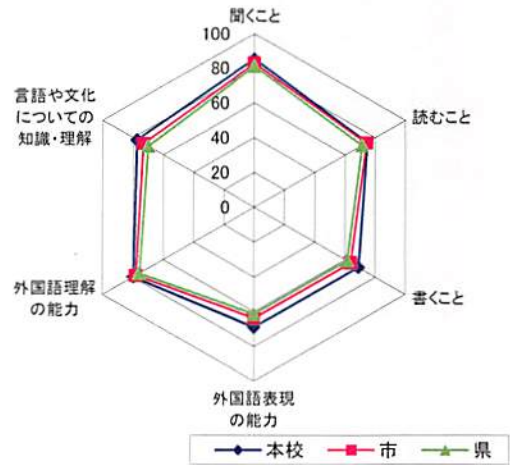
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○正答率は、市や県よりもポイントは高い。光の性質や鏡の性質は、基本が定着している。 ●細かく見ると、音の波形の説明などの思考表現問題でポイントが低い。	・記述問題や活用問題は、身近な実験例を見せてイメージさせることで、まず基本の定着をさせていきたい。
身の回りの物質	○正答率は、市や県よりもポイントは高い。 ●ポイントが低いのは、密度の計算、ガスバーナーの手順、濃度の計算であった。	・濃度や密度の計算は、公式の暗記だけでなく単位で計算する考え方を身につけさせ、身近な実験例を見せてイメージさせることを授業で実践したい。 ・ガスバーナーの手順ができていない。実験で数多く使用する器具なので、使用するたびに基本の確認をしていく必要がある。
植物の生活と種類	○正答率は、市や県よりもポイントは高い。特に、顕微鏡を正しく操作する手順の問題の正答率は高かった。 ●実験の結果から、考察する問題は正答率が低かった。	・顕微鏡の使い方はよくできており、今後も定着させていくために、顕微鏡を使い、観察をする授業ではその都度、ポイントを確認していく。 ・実験の目的をより明確にすることにより、探究心を持って実験に取り組めるよう指導していく。また、ワークシートなどを工夫して、考察する力やふりかえりをしていく必要がある。
大地の成り立ちと変化	○正答率は、市や県よりもポイントは高い。特に、重要語句を答える問題は正答率が高かった。 ●白色や無色の鉱物の種類がわかるの問題の正答率は低かった。	・基本的な重要語句については、よく覚えられているので、今後も丁寧な説明と、反復学習を行っていく。 ・鉱物標本などを活用して、実物の観察に時間をかける。 ・自然の様々な現象について、考える、推測する時間を設け、その力が身に着くような指導を工夫する。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	85.3	82.9	81.2
	読むこと	74.6	73.9	71.2
	書くこと	68.8	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	68.8	63.6	61.2
	外国語理解の能力	79.7	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	77.4	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全般的によくできている。基本的な問題については正確に問題文を聞き取ることができる。点数では県・市平均ともに大きく上回っている。 ●動物の数や通学方法をたずねる問題はほぼできているが、日付と曜日に関する問いについては正答率がやや低くなっている。	・曜日や日付も含めた基本的表現の定着を図る。授業での会話活動や帯学習を効果的に使い、それらの問答をしっかりと身に付けさせる。
読むこと	○対話文を読んで問いに答える問題は、おおむねよくできている。県の平均も大きく上回っている。 ●長文を読んで内容を読み取る問題は苦手のように、正答率も7割となっている。市との比較すると、この部分は集中して下回っている。	・ある程度まとまった文章を読む練習を多く取り入れる。また、制限時間内を設けて読ませるなど工夫をし、読解の力をつけさせたい。
書くこと	○並べ替えや、自分の好きな季節について書くなど、基本的な問題はおおむねよくできている。特に、How manyを使って正しい語順で書く問題は、県の平均を12%も上回っている。 ●つながりのある英文を3文以上書く問題については、県と市を上回ってはいるが、正答率は34%と低い。	・基本的な表現の定着を引き続き図るとともに、応用力がつくような指導をしていく。つながりのある英文を書けるよう、言語材料の使い方の指導、及びヒントとなる表現を与えながら指導をしていきたい。